

平成 25 年 2 月 26 日

小国地域消雪パイプノズル整備に関する要望書（案）

平成 25 年〇月〇〇日

長岡市長 森 民夫 様

小国地域委員会  
委員長 山崎豊士

<要旨>

平成 23 年度の地域委員会では、消雪パイプの電気料金を有料化することが議論されました。消雪パイプは、地域交通を確保し、経済的、文化的な生活を維持する小国地域の動脈的な存在です。地域委員会では、「有料化に際しては、消雪パイプの機能を整備し、十分な対策をとって不満解消する。」との条件を付して推進することを承認いたしました。

小国支所の資料によれば、平成 24 年度末で、なお 788 か所の不良ノズルが残存していることが判明いたしました。これを解消すべく、正副委員長、部長会議を開催して骨子をまとめるとともに、各委員に事前に資料配布して、本委員会で討論し、方向性を見出すことといたしました。

<消雪パイプノズル関連資料（小国支所提供）>

1 集落全体のノズル修繕要望個所数	23 年度	967 個	24 年度	1205 個	
修繕実施数	23 年度	372 個	24 年度	417 個	
未修理数	23 年度	595 個	24 年度	788 個	
2 年度別消雪施設予算査定額の推移					
平成 22 年度	21350 千円	23 年度	23100 千円	24 年度	25400 千円
	100%		108%		119%
			+1750 千円		2300 千円

<経緯>

- 1 平成 23 年度の地域委員会に於いて、消雪パイプ電気料金有料化に伴い、次の条件を付けて移行することを承認した。
  - ① 全集落に消雪パイプの電気料金有料化に伴う実施内容を説明し、理解を得たうえで、全集落が共同して移行する努力をして頂きたい。
  - ② 集落ごとに不良なノズルが多数存在しているが、支所は 1 年間 20 か所のノズル修繕が基準だと言っている。これを有料化に合わせて全面的に改

修し、消雪ノズルを万全な形で、有料化に移行して頂きたい。

- 2 平成 24 年 12 月 18 日 第 3 回地域委員会で緊急集約項目として、地域委員から消雪パイプノズルの不良に関する多くの意見が出された。
- 3 平成 24 年 12 月 28 日 市民クラブとの意見交換会で不良消雪パイプの現状を発表したところ、すでに予算措置済みであるとの見解を頂く。
- 4 平成 25 年 1 月 26 日 正副委員長、部長会議で消雪パイプの不良個所改善策の骨子作成した。
- 5 平成 25 年 1 月 30 日 小国支所に途中の経緯を説明した。  
同日 総代連峯村明会長にも会議メモをお渡しする。
- 6 平成 25 年 2 月 26 日 第 4 回地域委員会で検討し、対応方、方向性を確定したい。

<消雪パイプ不良の解消策について(議論の骨子)>

- 1 消雪パイプ関連資料 1 の未修理ノズル数が多いことが、各集落の不満の原因となっている。
- 2 同資料で平成 23 年度及び 24 年度に予算額が 1 7 5 万円、2 3 0 万円増額されており、その中でなぜ「不良ノズルが解消されなかったのか。」の説明を求めたが、小国支所の回答は次のとおりであった。  
「24 年度初は、不良ノズルを極力修繕する計画であったが、井戸の水が出なくなり緊急にポンプを取り換えたり、分電盤が故障して緊急修理した為、ノズル修繕の数が少なくなった。」
- 3 支所資料で、予算的に限界があると言っているが、山崎政策監が、移行に際しては、「十分な対策をとって不満解消する。」と約束されており、地域委員会でも十分意見交換して確認した内容である。  
さらに、この件については、総代会にも同一内容で説明されており、不良ノズルの解消をすることは、電気料負担を実施する前提条件と考えていたとの意見も総代、地域委員から多数寄せられている。
- 4 交付金対応の大型の工事は、実施時期を見通せるので、これ等の区間のパイプのノズル数を除いた全不良個数を全数改修してもらえば、不満解消につながる。
- 5 施工時期については、2 年位に分割して要望することも考えられる。  
しかしながら、平成 24 年度に実施する電気料金有料化に対応する施策であるため、表①の 24 年度未修理ノズル数 788 個を前提に単年度で実施すべきである。

1 か所改良工事費 1.5 万円×788 か所= 1,182 万円

6 要望書を上げるに際しては、地域委員会と総代連及び小国支所の意見を事前に調整し、まとめて、改善要望を上げるべきである。

総代連会長には、地域委員会の途中意見を渡したが、独自に各集落総代の熱い思いを達成するため、要望案を独自で提出したい意向である。

7 湧水井戸対策費は、修繕費対応でなく、交付金等別枠で要求しないと消雪パイプの維持管理は、不良のノズルが増えることとなる。

#### <消雪パイプの維持管理体制の確立について(議論の骨子)>

地域委員会では、消雪パイプの維持管理体制について、次の意見が出され、具体化することとした。

- ① 現在 支所と集落間で交わされている、「消雪パイプ維持管理の契約」を、より効果のある具体的な内容に見直しする。
- ② 消雪パイプのメンテナンスに関する方法を具体的に定め、各集落が取り組みやすい体制を作る。

さらに、それを具体的に推進するため、年1回、集落合同の消雪パイプ維持管理の研修会議を開催することとする。

## 検討すべき課題として提示された問題点の進め方（案）

### 1 小国地域女性と子供が過ごしやすい環境の整備に関すること

#### <要旨>

地域の活動に女性や若者の意見を反映させ、生きがいのある、住みやすい小国地域を作り上げる。来年度の地域委員会の主要活動目標として位置づけ、取り組みすることとする。

#### <意見>

- (1) 地域活性化を図るために、女性、子供の意見が集落やお祭り、地域行事に反映されることが望まれるが、その機会が少なく、女性や子供が、住みにくい原因になっているとの指摘があった。
- (2) 現在、活動を開始している「地域づくり交流会」に、市民生活課を通じて、交流会議の話題にしてもらおう。
- (3) 地域に小学生が増えない理由を考えると、入学直前に来迎寺や宮内、柏崎に若手夫婦が子供同伴で引越しする事例が多い。地元で子育てできる利点や地元で生活する安心感を与えられる対策が必要である。
- (4) 小学校の在校生が少なく、安心して子供を預けられない。子供がいっぱいいる地域の小学校を選びたいとの考えがある。  
地域の意見を集約して、充実した教育環境を整え、小学校を魅力ある場として改善する必要がある。
- (5) お祭りや集落組織に女性や子供のお声を引き上げるにも、勤務や家事との関係で、時間が取れないとの意見も多い。直接、役員にならなくても、SNS（ソーシャル・ネットワーク・システムの略称）を活用して意見を反映させられれば、組織が活性化する。  
支所を核とした安心、安全なSNSが構築できないか。
- (6) 支所からの一斉放送（オフトーク）が廃止されてから、消防団の召集や各組織の緊急連絡体制に不備が目立っている。過疎地における連絡体制として携帯電話を活用したSNS（ソーシャル・ネットワーク・システムの略称）を活用できないか。
- (7) SNSは、個人情報保護や使い方でもまだ十分な体制が整えられていない。それらも考慮する必要がある。
- (8) 地域手作りカワラ版等を活用できないか。  
6、7で集約された意見やアンケートの結果をまとめ、地域や組織の瓦版として発行し、地域の行事やお祭りを盛り上げてはどうか。

## 2 地域のお祭りや行事を観光客誘致や産業振興に活用できないか。

<要旨> もちひとまつり、雪上エンジェーロ等を観光や産業振興に生かし、観光客の誘致や地元の特産品の販売に結び付けられないか。

各種組織間の連携を取りながら、来年度の地域委員会の課題として検討を継続する。

### <意見>

- (1) 小国地域には、郷土料理や特産物がいっぱいあると言われるが、イベントをやる場合に、参加して貰える個人や団体が未成熟である。参加したいが、人手や経費面で動けない面がある。
- (2) アオーレを活用した小国町の情報発信も可能である。参加すれば評判は良いが、イベントを通して、収益を確保することが難しい。
- (3) 地域内の各種団体が、互いに連携し合えば、イベントを効果的に活用し、収益確保が可能な体制ができるのではないか。
- (4) キャラクター「おぐりん」を活用した情報発信を具体化する。